



8月が来ると、昭和20年の8月2日、小学校3年生のとき水戸の空襲で焼け出され、防空壕暮らしをしたのを思い出します。

兄に指導されて昆虫標本を作り出したのが次の年、手作りの網で虫を追いかけて廻した中で、このカラスアゲハはなかなか採れない憧れのチョウでした。

▼青緑色に輝く美しさ

黒地に青緑色の鱗粉をまき散らした美しさは格別で、輝きの強さを見る角度によって微妙に変わります。

平地よりは里山や山地の森林、溪流沿いの林縁に多く見られ、春型はツツジ類・ノアザミなど、夏型はクサギ・ヤマユリなどに飛来します。

雄は林道の湿地に集まって吸水する

里山に育む生きものたち

17 カラスアゲハ

(チョウ目 アゲハチョウ科)

学名 *Papilio bianor dehaanii* C.etR.
Felder

写真・文 / 小菅 次男

のがよく見られます。これは羽化したばかりの雄は成熟するためにミネラルが必要なためと言われています。

▼幼虫の食樹はミカン類

幼虫は、平地ではコクサギを好みますが、街の中ではコクサギが少ないのでカラタチにも産卵します。ナガサキアゲハのようにには栽培種のミカン類はあまり好みません。

本州ではおもにコクサギを食べますが、カラスサンショウ、サンショウ、イヌザンショウ、カラタチ、ミカンなどにも発生することがあります。

森林地帯を好み、個体数は好適な食草の分布に左右されて、平地ではクロアゲハに及ばず、山地ではコクサギの多い渓谷などではしばしば多産します

が、高地帯ではミヤマカラスアゲハよりも少なくなります。

▼蝶道

小高い丘の上を歩いていると、このチョウが一定のところを一定の方向に次々と飛んでいくのに出会うことがあります。翌日、同じ場所に行ってみると、やはり同じ光景を見ることが出来ます。

アゲハチョウの仲間には、このようにある一定のルートを飛ぶ習性があり、そのチョウが飛ぶところを「蝶道」と呼んでいます。これは雄が雌と出会うために一定の縄張りを張る占有行動だと言われています。

カラスアゲハの他にはクロアゲハ・ミヤマカラスアゲハ・モンキアゲハなどがあり、雄に限られています。

▼分布

北海道・本州・四国・九州のほか離島にも広く分布していますが、種子島・屋久島には見られません。国外ではサハリン・朝鮮・中国・台湾・ベトナムなどに分布しています。

離れ島では別々の進化が進み、八重山諸島産・沖縄諸島産・奄美群島産・伊豆八丈島産など、多くの亜種に分かれています。

北海道や高地帯では年1回の発生ですが、一般には年2回の発生で、春型は4月下旬、夏型は6月下旬から羽化し9月下旬まで見られます。

編集・発行 / 茨城町総務企画部まちづくり推進課

〒311-3192 茨城県東茨城郡茨城町小堤 1080 TEL029-292-1111

ホームページアドレス <http://www.town.ibaraki.lg.jp/> メールアドレス ibarakit@town.ibaraki.ibaraki.jp

DATA

茨城町の人口と世帯数 ※カッコ内は前月比です。(住民基本台帳 平成 25 年 7 月 31 日現在)
◆総人口 34,356 人 (-50) 男 17,198 人 (-24) 女 17,158 人 (-26) ◆世帯 12,620 戸 (+9)

DATA

再生紙を使用しています



環境に優しい大豆インクを使用しています